

研究報告  
(研究プロジェクト1)

## 日体大とオリンピックの関わり

依田 充代 (スポーツ社会学研究室)

### はじめに

本プロジェクトは、①メダリストへのインタビュー、②資料の発掘、③アーカイブ、④オリンピック教育プログラム研究：日体大スタンダードで構成され、2018年度から新たに再構成され実施された。

1. 日本体育大学を卒業したオリンピックメダリストに対するインタビュー調査(原稿依頼)及びオリンピックメダリスト関連資料の収集から、オリンピックレガシーの構築を目的に設定されている。オリンピックメダリストへのインタビュー項目(原稿依頼)は、以下の通りである。

- (1) 経歴
- (2) 競技との出会い
- (3) 日体大の思い出(選手生活の思い出)
- (4) オリンピックでのメダル獲得
- (5) その後の人生
- (6) 後輩に一言
- (7) その他

### ① 森田淳悟氏へのインタビュー

担当教員：福井 元, 神田 俊平

日程：2019年1月8日

場所：日本体育大学 東京・世田谷キャンパス

### ② 砂岡良治氏への原稿依頼

担当教員：福井 元

### ③ 小高正宏氏への原稿依頼

担当教員：福井 元

### ④ 太田拓弥氏への原稿依頼

担当教員：松波 登久馬

### ⑤ 佐藤満氏への原稿依頼

担当教員：松波 登久馬

### ⑥ 相原豊氏への原稿依頼

担当教員：波多腰 克晃, 大河原 裕迪

### ⑦ 山本洋祐氏への原稿依頼

担当教員：依田 充代

### まとめ

2016年度から始動した本プロジェクトは、日本体育大学を卒業したオリンピックメダリストを対象に調査を行ってきた。本調査から、新たな先

生方に加わっていただき、原稿依頼やインタビューに際しお骨折りいただき心から感謝申し上げます。2019年度も継続的に日本体育大学のオリンピックメダリストに対して原稿依頼を行い、2020年東京オリンピックまでに全てのメダリストの軌跡を記録するために、尽力していきたい。

## 2. 平成30年度「リオ・オリンピック教育プログラム（トランスフォルマ教育プログラム）に関する資料収集（ポルトガル語翻訳資料）」報告

波多腰 克晃

本研究は2018年度中に翻訳者に翻訳支払が完了し、「リオオリンピック・パラリンピック大会の教育プログラム—「トランスフォルマ」プログラムの可能性と課題—（仮）」と題した論文をオリンピックスポーツ文化研究に投稿予定である。

## 3. 平成30年度「中学校・高等学校の体育理論におけるオリンピック教育・パラリンピック教育の指導案並びに検証方法の検討」報告

近藤 智靖

2018年度は、スポーツ教育学研究室において、高等学校保健体育科の体育理論に焦点をあてて、その在り方について検討を重ねてきた。現行の高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省、2008）では、体育理論の中に「オリンピックムーブメントとドーピング」という項目があり、ドーピングがスポーツの文化的価値を失わせる行為であることが明記されている。しかし、現実の高等学校の授業では、体育理論が十分に実施されているわけではなく、とりわけドーピングの問題はほとんど扱われていない可能性がある。そこで、スポーツ教育学研究室では、こうしたドーピングの問題を中心に、具体的にどのように授業化できるかについて検討をしてきた。その際、新学習指導要領の中で示されている「主体的・対話的で深い学び」の方向性を踏まえて授業を構成し、生徒が

基礎知識を活用して、グループでの話し合いができるような学習過程を組んだ。また、今後、高等学校の保健体育科教師が、授業において利用可能な学習指導案や学習カードなどの検討を行った。なお、今年度は、下記の手順で研究を実施した。

(1) 関連文献の検討と学習指導案の作成をした。(平成30年5月～9月)

(2) (1)で作成した学習指導案を基に、大学院生間で模擬授業を繰り返し実施し、検討した。(予備実験1)(平成30年9月～11月)

(3) 本学学部生を対象に、大学院生が模擬授業をし、成果を検証した。(予備実験2)(平成30年12月)

(4) 予備実験2の結果を踏まえて、関東地方のある高等学校に授業研究の依頼を行い(平成31年1月)、1年生を対象に授業を実施した(本実験1)(平成31年3月)。

今後の課題として、本実験1で明らかになった課題を修正し、2019年度前期に関東地方の別の高等学校において、本実験2を行う予定である。

## 4. 平成30年度「オリンピック教育に関する研究調査」報告

依田充代、齋藤雅英、波多腰克晃

目的：本研究は、プロジェクト「オリンピック教育」について、1964年東京オリンピックの際に沖縄でどのような活動が行われたのかを明らかにするために資料収集を行うことである。

結果：2019年3月16日～18日の日程で、沖縄に出張した。目的は1964年東京オリンピック開催と返還前の沖縄市民の受け止め方を新聞メディアから読み取ることであった。調査場所は沖縄県立公文書館と沖縄県立図書館、琉球大学附属図書館、沖縄資料館、奥武山記念公園であった。調査の結果、多くの知見と新たな研究テーマを発見することができた。今後、継続して新たな研究テーマを進めて行く。

(受理日：2019年4月5日)